

COPY

正

請

実用新案登録願 A

1,500円

昭和46年4月3日



特許庁長官 佐々木 学殿

1 考案の名称 ヘッドホーン用スピーカボックス
の連結具

2 考案者 実用新案登録出願人に同じ

3 実用新案登録出願人

埼玉県新座市新堀105

中 馬 俊 夫

4 代理人弁護士

東京都練馬区練馬4丁目14番15号

(6813) 伊 藤 和 三 郎

TEL (091) 6788

5 添付書類の目録

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 明 細 書 | 1 通 |
| (2) 図 画 | 1 通 |
| (3) 委 任 状 | 1 通 |
| (4) 出願書と請求書 | 1 通 |



47-19024-01

方式
審査



46-024652

明 細 書

1. 考案の名称 ヘッドホン用スピーカボックス の連結具

2. 実用新案登録請求の範囲

半円状の連結棒 1 の両端を、中継板 2 の先端の屈曲部 3 に穿設した貫通孔 4 内にそれぞれ挿入し、この中継板 2 は略彎曲状で先端を屈曲部 3 と成して後端を外側に曲成して突出部 5 を一体に形成していると共に中央に縦長孔 6 を穿設して形成され、該縦長孔 6 内に把持部 7 を装設した螺子 8 を揺動自在になるように挿入すると共にこの螺子 8 は前記連結棒の先端附近に固着され、左右両中継板 2 の突出部 5 に略円状のスピーカボックス取付部 9 をそれぞれ軸止 10 したことを特徴とするヘッドホン用スピーカボックスの連結具。

3. 考案の詳細な説明

本案は構成至極簡単で然も部品数が少なくてその組立も容易で然も被冠の際の取扱いが極めて便であり、スピーカボックスを確実に被冠者の両耳

に当接できる構造を具有するヘッドホーン用スピーカボックスの連結具を提供するにある。

本案の実施例の詳細を以下図面に従つて説明すると、半円状の連結棒 1 の両端を、中継板 2 の先端の屈曲部 3 に穿設した貫通孔 4 内にそれぞれ挿入し、この中継板 2 は略彎曲状で先端を前記屈曲部 3 と成して後端を外側に曲成して突出部 5 を一体に形成していると共に中央に縦長孔 6 を穿設し、該縦長孔 6 内に把持部 7 を装設した蝶子 8 を摺動自在になるように挿入すると共にこの蝶子 8 は前記連結棒の先端付近に固着され、左右両中継板 2 の突出部 5 に略門状のスピーカボックス取付部 9 をそれぞれ軸止 10 したことを特徴とするヘッドホーン用スピーカボックスの連結具であり、11 はスピーカボックス取付部 9 の両端の下端付近に穿設した取付螺子の挿入孔である。

本案は上記の様な構成であり、半円状の連結棒 1 と彎曲状の中継板 2 の組立は、中継板 2 の屈曲部 3 に穿設した貫通孔 4 に連結棒 1 の両端を挿入して中継板 2 の中央に穿設した縦長孔 6 に把持部

7を装設した螺子8を挿入すると共にこの螺子8を連結棒1の先端付近に固着するだけで容易に組み立てることが出来、この把持部7を把んで中継板2の中央に穿設した縦長孔6内に螺子8を上ト方向に摺動させれば螺子8の摺動と共に連結棒1も可動する。

したがつて本案の連結具は把持部7を上トに摺動させるだけで連結棒1を伸縮自在にすることが出来るので、容易に被聴者の頭の大小に応じて連結棒1の長さを選択出来る極めて取扱い便なるスピーカボックスの連結具が得られる。

又本案の連結具は中継板2の他端の突出部5に略口状のスピーカボックス取付部9をそれぞれ軸止10したので軸止10した個所でスピーカボックス取付部9と9は遊動してスピーカボックス（図示省略）も該取付部9と9と共に遊動するため極めて楽に行えて被聴者の耳に密着しやすい。

上記のように本案のスピーカボックスの連結具は構成が至極簡単で然も部品数も少ない上に未熟練者にも容易にその組立が出来ると共に連結棒の

長短を容易に選択して調節出来て、接続の際の取扱いも便利などの幾多の実用的価値を具有している。

4. 図面の簡単な説明

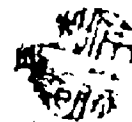
図は実施例を示し、第1図は本案の連結具の斜面図、第2図は要部の中継板を示す斜面図であり、主要符号1は連結棒、2は中継板、3は屈曲部、4は貫通孔、5は突出部、6は縦長孔、7は把持部、8は螺子、9はスピーカボックス取付部である。

実用新案登録出願人

中 馬 俊 夫

代 理 人

伊 藤 和 三



第 1 図

